

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	秋田県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

鹿角市立花輪第一中学校						
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	3	4	0	12	
生徒数	126	109	122	0	357	23

内容与方法

1 研究主題

生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実～「確かな学力」の向上を目指して～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年，全教科で研究実践を行う。
 確かな力＜学力＞は，教科などで習得する基礎・基本をベースとした「学ぶ意欲」「自ら学び，自ら考える力」と定義し，学校の教育活動全体で育成する「トータルな力」と捉える。そのため，全教科で育成すべきであるという考えに基づいている。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 生徒一人一人に応じた指導の工夫～「確かな学力」の向上を目指して～</p> <p>仮説 個に応じた指導のための教材，指導方法や指導体制の工夫を図ることで，確かな学力を身に付け，主体的に学び続ける生徒になるのではないか。</p> <p>研究内容・方法 (1) 研究の内容 授業改善のポイント「確かな力を付ける授業づくり」の推進 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発 少人数学習集団での学習，習熟度を考慮したTTの改善など個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 生徒の学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>(2) 研究の方法 「確かな力を付ける授業づくり」のチェックポイントを活用した授業改善の推進をする。 (1) に記した柱をもとに各教科で研究実践内容を設定して取り組む。 全教科の研究会，初任者実習校研修での授業実践などを活用して教科の研究実践を深める。 12月に生徒に対して教科の学習についてアンケートを実施し，その結果と秋田県で実施した学習状況調査，NRT検査を踏まえて，研究の成果と課題をまとめる。</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

テーマ

生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実
～「確かな学力」の向上を目指して～

仮説

個に応じた教材開発，指導方法や指導体制の工夫，評価の工夫を図ることで，主体的に学び続ける生徒になるのではないか。

研究内容・方法

(1) 研究の内容（研究一年次の研究の内容 ～ の修正と充実）

授業改善のポイント「確かな力を付ける授業づくり」の推進

- ・何を学習するのか分かるような学習課題の提示する。
- ・生徒の興味・関心，意欲，発想を大切にした学習過程を工夫する。
- ・学習の見通しをもたせ，主体的に学習に取り組ませる。
- ・学習のねらいに基づき，学習形態を工夫する。
- ・ＴＴや少人数学習などの指導形態を工夫する。
- ・学習意欲を高めたり，理解を助けたりするための教育機器の活用を工夫する。
- ・学習内容を定着させるための活動や作業時間を保障する。
- ・学習をまとめたり，振り返ったりする場面を設定する。
- ・学習課題の達成度を確認し，次時の授業の改善点や補充すべき点を把握する。

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちの興味・関心に基づいた教材開発 ・習熟度別教材の活用
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・選択教科における教材の工夫 ・歴史能力検定受験の推進の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自作教材の作成とその活用 ・補充的な学習における小問題の作成
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟に応じた教材の選択
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な発想や形，色，材料で表す技能などの基礎的能力を身に付けさせる教材の開発 ・生徒の習熟に応じた題材の開発
保体	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じた学習課題の設定 ・課題達成のための練習計画・練習方法の工夫
技家	<ul style="list-style-type: none"> ・選択題材の設定
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業における教材の工夫とその蓄積 ・選択教科における複数のコース設定と教材の工夫 ・英語検定受験の推進の工夫

少人数学習集団での学習，習熟度を考慮したＴＴの改善など個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ＴＴによる指導法の工夫 ・地域の人材を活用した毛筆書写の指導
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に応じるためのＴＴや少人数学習などの指導形態の工夫

	・「活動的で協同的で表現的な学び」を取り入れた指導の工夫
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別少人数学習（ＴＴ）の推進 ・計画的な家庭学習の導き ・評価と指導の一体化
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・コース選択による実験や材料自主選択による観察・実験など選択した方法で課題解決する場面の設定 ・生徒一人一人が対象にはたらきかけるための実験器具などの準備
音楽	・いろいろな形のグループ学習の推進とその成果の発表
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた多様な表現方法の選択幅の拡大と，選択別によるグループ活動の実施 ・鑑賞カードを用いた鑑賞の指導の充実 ・学習カードの活用における自己評価の定着と本時の目標の確立
保体	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入時の学習ガイダンスの充実 ・発展的・補充的な学習のためのＴＴ
技家	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の工夫 ・コース別，グループ別学習の実施
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習集団をベースとした授業の実施 ・興味・関心や習熟度に応じた選択教科の工夫

生徒の学力の評価を生かした指導の改善

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストを活用した定着度の確認 ・自己評価による学習の振り返り
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における観点別評価の工夫 ・単元テストや定期テストの結果を生かした指導の工夫
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの結果を生かしたコース別学習の実施 ・評価問題の精選
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・評価規準に照らした問題作成と，繰り返し指導 ・課題や単元テストの分析と，再学習や個別指導の実施
音楽	・学習カードのつばやきを生かした授業の実施
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・観察法・作品法による観点別評価の充実 ・自己評価や相互評価を取り入れた指導の工夫
保体	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト（年２回実施）の結果の有効活用 ・自己評価・相互評価の充実
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットテストや定期テストでの観点別評価の工夫 ・テスト結果や自己評価を生かした指導の工夫

その他全校体制での取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・選択教科の実施の工夫と学習内容の工夫 ・２年生における学級を解体した少人数学習集団の編成

- ・テスト週間における学習相談期間の実施
- ・オープンスクールウィークの実施

(2) 研究の方法

学習指導部が中心となり、「確かな力を付ける授業づくり」のチェックポイントを作成し、それを活用した授業づくり，授業改善を進める。

研究一年次の実践内容を修正，改善しながら，研究を深める。

校内研修会，7月の授業研究会，11月の中間公開研究会を通して，各教科の研究実践を共有化する場を設定する。

学習状況調査，NRT，教科の学習についてアンケートの結果をもとに研究の成果と課題をまとめる。

テーマ

生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実
～自ら学び，自ら考える生徒の育成～

仮説

生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図ることで，自ら意欲的に学び続け，自ら考えようとする生徒になるのではないか。

研究内容・方法

(1) 研究の内容

研究一・二年次の成果をもとにした授業づくりのポイントの明確化，一般化と，それを生かした授業実践を深める。

教科枠を越えた指導力向上のための授業研究を進める。

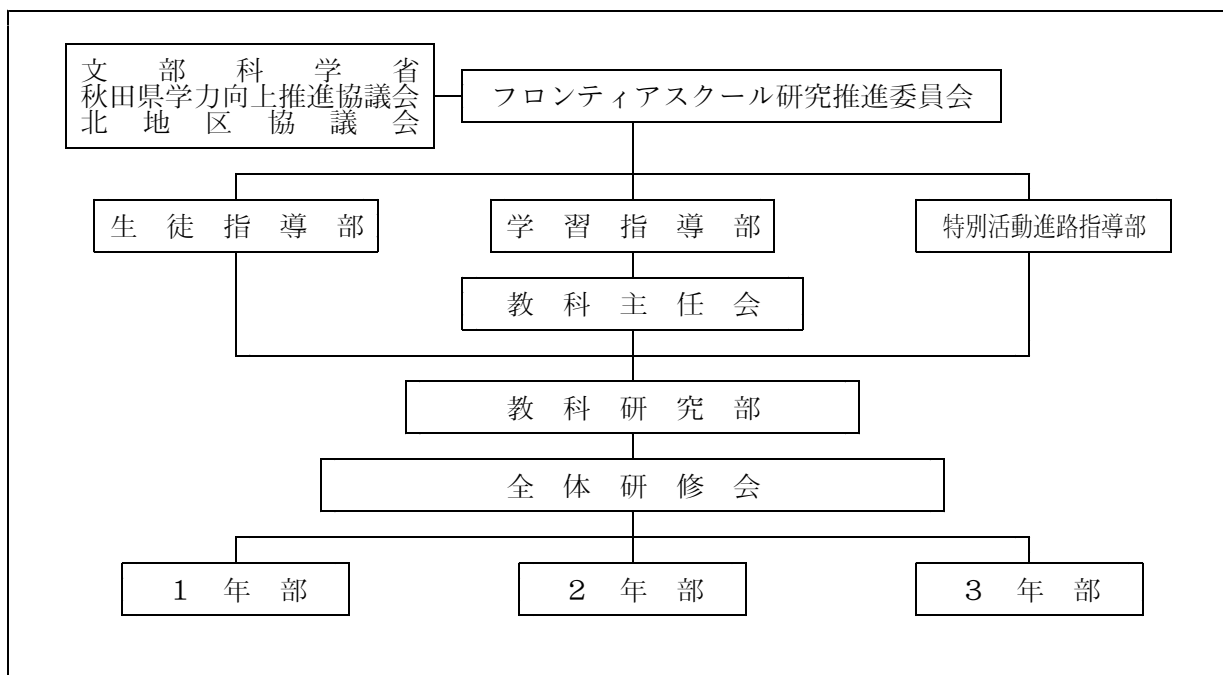
(2) 研究の方法

生徒一人一人に応じた授業づくりのポイントの明確にし，授業実践を進める。各教科の研究一・二年次の実践内容を修正，改善する。

7月の授業研究会，11月の鹿角教育研修委員会主催教科研究会を兼ねた公開研究会を行い，3年間の研究の成果と課題を地域を中心に普及に努める。学習状況調査，NRT，教科の学習についてアンケートの結果をもとに研究の成果と課題をまとめる。

平成
16
年
度

(3) 研究体制

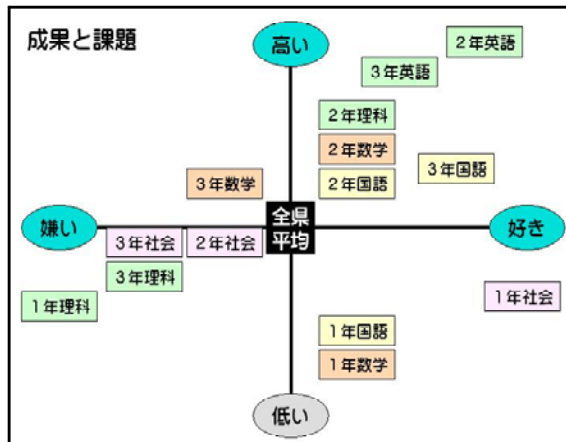


平成15年度の成果及び今後の課題

1 研究の成果

平成14年度，15年度学習状況調査から見た成果と課題

(1) 学習状況調査の各教科の平均通過率と学習の意欲等に関する調査結果から見た本校と全県平均との比較



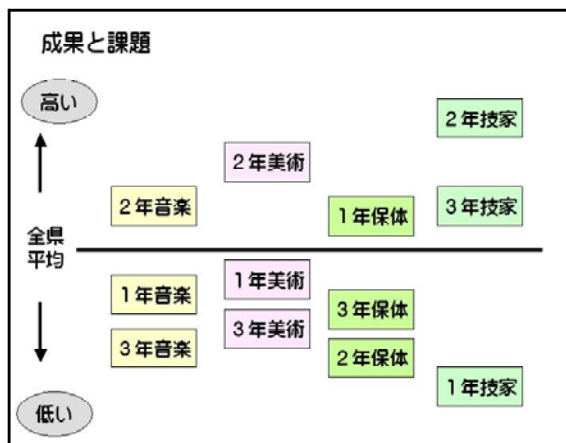
「国語，社会，数学，理科，英語」における平均通過率と教科の「好き」「嫌い」との相関関係

・ 1年生は，すべての教科で全県平均を下回っていることから，小学校での学習が十分定着していないことが分かる。

しかし，学習が「好き」という教科が多いことは，各教科の授業や研究実践が充実した結果だと思われる。特に大部分の生徒が，社会を「好き」と答えており，今後さらに理解や定着につながることを期待したい。

・ 2年生は，社会が全県平均とほぼ同じで，他の4教科は全県平均に比べて高い。教科の学習を「好き」と答えている生徒も多く，研究一年次の実践が成果として現れてきていると思われる。

- ・ 3年生は，2年生よりも劣るものの，学習をよく理解していることが分かる。しかし，学習に対しては「嫌い」と思っている生徒が多く，今後の課題である。



「音楽，美術，保体，技・家」における教科の好き嫌い

- ・ 2年生は の5教科と同様，興味・関心をもって学習に取り組んでいることが分かる。しかし，1・3年生については「嫌い」と答えている生徒が多い。これまでの授業で，その教科に対しての興味・関心を高めることができなかったためととらえている。

これらの教科においては，特に学習の動機付けや学習の意欲を高めることが大切であり，この点においては，今後の大きな課題である。

(2) 平成14年度，15年度学習状況調査における本校の平均通過率と全県の平均通過率の比較
1年生

1年	国語	社会	数学	理科	英語	合計
全県平均通過率	81.5%	64.6%	59.8%	75.7%		70.4%
本校平均通過率	79.0%	62.3%	56.3%	74.1%		67.9%
H15全県平均通過率との差	-2.5%	-2.3%	-3.5%	-1.6%		-2.5%

- ・ 実施した4教科すべてが全県平均通過率を下回っている。特に，社会，数学の2教科の落ち込みが大きい。設問毎に分析すると，この2教科は大部分の問題が設定通過率よりもかなり下回っている。このことから，小学校での学習が，特定の單元ではなく，全般的に学習内容を十分に理解していないことが分かる。今年度の取り組みがどのように効果があったか次年度期待したい。

2 年生

2 年	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
全県平均通過率	69.4 %	51.0 %	51.0 %	57.5 %	62.4 %	58.3 %
本校平均通過率	71.0 %	50.0 %	53.6 %	60.3 %	72.2 %	61.4 %
H15全県平均通過率との差	+ 1.6 %	- 1.0 %	+ 2.6 %	+ 2.8 %	+ 9.8 %	+ 3.1 %
H14全県平均通過率との差	- 7.4 %	+ 1.0 %	+ 1.6 %	+ 3.6 %		- 0.3 %

- ・ 英語が全県平均通過率をかなり上回っているが、その他に国語の伸びが顕著である。昨年度と今年度の全県平均通過率との差を比べると、この1年間でかなり力を付けたことが分かる。また、反対に昨年度との全県平均通過率との差を見ると、社会、理科では、生徒の力を伸ばし切れなかったと言える。
- ・ この学年は、昨年度、30人学級が適用された学年である。1年時から評価の結果を生かしながら、補充指導にも力を入れてきた。また、今年度は学級を解体し、3学級を4学習集団に再編成し、社会、数学、理科、英語の授業を実施している。また、国語についてはTTで授業を行っている。そのような取り組みが効果があったと思われる。

3 年生

3 年	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
全県平均通過率	74.3 %	58.8 %	55.5 %	55.5 %	67.7 %	62.4 %
本校平均通過率	76.6 %	58.2 %	56.5 %	55.0 %	71.2 %	63.5 %
H15全県平均通過率との差	+ 2.3 %	- 0.6 %	+ 1.0 %	- 0.5 %	+ 3.5 %	+ 1.1 %
H14全県平均通過率との差	+ 3.5 %	- 1.4 %	+ 5.1 %	- 3.8 %	+ 8.7 %	+ 2.3 %

- ・ 前年度と同様、社会と理科が下回っているが、昨年度と今年度の全県平均通過率との差を比べると、少しずつ差が縮まっている。また、他の3教科は、反対に伸びていないことが分かる。
- ・ 英語は、昨年度から少人数学習集団での授業をベースとしたTTを実施している。生徒の習熟度や興味・関心別等のクラス編成を行っている。また、選択教科でも積極的に発展的な学習や補充的な学習に取り組ませている。このような取り組みが、2年連続で全県平均通過率を大きく上回ることに繋がっていると思われる。

2 今後の課題

- (1) 「確かな学力を付ける授業づくり」のチェックポイントの改善
 - ・ 各教科の取り組みを一般化し、授業づくり（授業改善）のより明確なチェックポイントづくりが必要である。
- (2) チェックポイントを活用した授業づくりと教科枠を越えた指導力向上のための授業研究
 - ・ 授業づくりの共通した指導力、指導技術の明確化や学び合い、高め合えるための校内研修の工夫をしたい。
- (3) 生徒の主体性や意欲を高める授業づくり
 - ・ (1)と(2)を生かしながら、生徒の知的好奇心をかき立てるような授業づくりが必要である。

学力把握のための学校としての取組

- 1 鹿角郡市で取り組んでいるNRTの活用
期日 平成15年5月2日
目的 前学年の学習内容の定着度を検査する。
内容 1年～国語 数学 理科 社会 2・3年～国語 数学 理科 社会 英語
- 2 秋田県で実施する学習状況調査の活用
期日 平成15年7月
目的 前学年の学習内容の定着度を検査する。
内容 1年～国語 数学 理科 社会 2・3年～国語 数学 理科 社会 英語
- 3 学習に関するアンケート
期日 平成15年11月
目的 各教科の研究実践の有効性をアンケートにより確かめる。
内容 全学年 全教科の研究実践に関わるアンケート調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 フロンティアスクール花輪小・花輪一中授業研究会
期日 平成15年6月10日
場所 花輪第一中学校
対象 花輪小学校，花輪北小学校，花輪第一中学校全教員
内容 ・学力向上に関する各校の取り組みについて情報交換をする。
・道徳，学活の授業でTTによる研究授業を実施する。
- 2 第1回授業研究会
期日 平成15年7月4日
場所 花輪第一中学校
対象 市内の小学校，中学校，全県フロンティアスクールの教員
内容 研究授業，各教科の分科会，全体会
- 3 中間公開研究会
期日 平成15年11月7日
場所 花輪第一中学校
対象 市内の小学校，中学校，全県フロンティアスクールの教員
内容 研究授業，各教科の分科会，全体会
- 4 英語科における習熟度別授業の取り組みの紹介（書籍の原稿執筆）
書籍 「習熟度別指導の基礎・基本」教育開発研究所
内容 英語科での習熟度別授業の実践紹介
- 5 研修委員会主催鹿角教育実践発表会における教科の取り組みの発表
期日 平成16年1月8日
場所 鹿角市広域交流センター・山村開発センター
対象 市内小学校，中学校の教員
内容 ・国語科と社会科の研究実践の発表
- 6 秋田県教育研究発表会での研究二年次のまとめの報告
期日 平成16年2月13日
場所 秋田県総合教育センター
対象 県内小学校，中学校，高等学校の教員及び教育関係者
内容 ・研究二年次の報告
- 7 フロンティア講演会これからの授業づくりに関する合同研修会
期日 平成16年2月27日予定
場所 花輪第一中学校
対象 市内の小学校，中学校
内容 授業参観，講演会（静岡県富士市立岳陽中学校校長佐藤雅彰氏）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | | | | | |
|----------------------|------------|-------|------------|----------|---|----|---|-------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | ✓ | 14年度からの継続校 | | | | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | | 4～6学級 | | | | | |
| | 7～9学級 | ✓ | 10～12学級 | | | | | |
| | 13～15学級 | | 16学級以上 | | | | | |
| 【指導体制】 | ✓ | 少人数指導 | ✓ | T・Tによる指導 | | | | |
| | ✓ | その他 | | | | | | |
| 【研究教科】 | ✓ | 国語 | ✓ | 社会 | ✓ | 数学 | ✓ | 理科 |
| | ✓ | 外国語 | ✓ | 音楽 | ✓ | 美術 | ✓ | 技術・家庭 |
| | ✓ | 保健体育 | | その他 | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | ✓ | 有 | | | | | 無 |